

# 賛助広告ご協力企業・団体等一覧

広告サイズ	企業・団体等名称	代表者等氏名 (広告担当者)	(卒業年・科)	所 属	掲載ページ
L(h4)	カラー 鎌田工業株式会社	鎌田 満雄	(S27C)	東京秋工会	裏表紙
	カラー アイシン産業株式会社	宮川 良一	(S34M)	東京秋工会	裏表紙
L(h3)	カラー サンパウロ・ラーメン餃子専門店「あすか」	伊藤 武	(S36E)	東京秋工会 ブラジル在住	58
L	合同会社アーバン・コンサルタント	三平 俊悦	(S39A)	東京秋工会	4
	Aターンプラザ秋田	-	-	-	26
	澤木萬國特許事務所	澤木 誠一	(S26E)	東京秋工会	5
	東神興業株式会社	夏井 雅樹	(S58M)	東京秋工会	7
M	カラー 伊藤貴金属店	赤塚 京二	(S40C)	秋田本部	13
	カラー 株式会社ジオ	佐々木 進	(S40S)	東京秋工会	17
	カラー 株式会社三山コンサルタンツ	佐々木 進	(S40S)	東京秋工会	58
	カラー テンシャル株式会社	大塚 廉造	(S32K)	東京秋工会	58
	カラー 株式会社オー・ティー・ティー・エス	田中 誠悦	(S32K)	東京秋工会	30
	カラー ランドオーナーオフィス	地主 勝己	(S37C)	東京秋工会	19
	カラー 労働安全コンサルタント	小野 鐵雄	(S38C)	東京秋工会	32
	カラー アルカディア市ヶ谷	-	-	-	22
	カラー 株式会社KM	伊藤 幹夫	(S46A)	東京秋工会	49
	カラー プランニング&デザイン KFWークス	船木 一美	(S48M)	東京秋工会	6
	株式会社渡辺佐文建築設計事務所	渡邊 佐文	(S25A)	秋田本部	25
	富士コンサルタンツ株式会社	野呂 昭光	(S37C)	東京秋工会	29
	伊藤工業株式会社	伊藤 満	(S54C)	秋田本部	8
	地鶏串焼割烹「音羽亭」	-	-	-	39
	株式会社大石建設	大石 昭彦	(ゴルフ同好会ゲスト)	-	38
	株式会社東日本メモリアルサービス	成田 竜也	(鷹巣高校出身)	-	20
	秋田ひえばなの会(書籍/首都圏在住秋田人100人の物語)	田村 輝夫	(鷹巣農林高校出身)	-	23
			(船木一美/S48M)		
	S	カラー ギタリスト 岩見谷 洋志	岩見谷 洋志	(S41E)	東京秋工会
カラー 株式会社北勢工業		太田 博之	(S56K)	秋田本部	48
株式会社汎建築設計事務所		鈴木 誠一	(S38A)	秋田本部	46
株式会社償 研		池田 昌憲	(S47A)	秋田本部	31
彩光建設株式会社		下總 勉	(S47A)	東京秋工会	36
有限会社ワシヤプロモーション		鷲谷 透	(S56M)	東京秋工会	36
MSP	カラー 東京秋工会 ゴルフ同好会				24
	カラー 東京秋工会 写真同好会				18

以上32の企業・団体・個人・同好会の皆様からご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

## 編集後記

会報金砂の編集長を拝命して、今回が6号目であつという間に6年が経過しました。会員の皆さんに、気軽に読んでいただくために写真をできるだけ配置していますが、概ね好評のようです。ところで会報製作費用は、賛助広告の費用で賄っています。しかし年々賛助広告が減っており、また賛助頂いている方も高齢になってこの先の費用工面が厳しくなっています。会報を継続していくために皆様のご支援を今一度お願いします。

編集長 嵯峨 良平 (S43E)

今回、佐藤稔氏(昭22電)に寄稿して頂いたが、きっかけとなったのが佐藤氏から会に寄贈された257ページにわたる自分史、ふだん記(ぎ)新書「忘れ草」である。この本を拝読し、手紙で会報に寄稿をお願いして快諾して頂いた。

「ふだん記」は、八王子市の橋本義夫氏(1902-1985)が、「下手に書きなさい」「上手本意の競争をしないで、人生の報告書を一冊残すこと。美文名文などより、自分の生きてきた事実をありのままに記録すること」を提唱し、全国的に広まった自分史運動。会報などでも自己紹介の意味でページ数の多少はあっても自分史的な寄稿を書くことがあるが、「普段感覚で気楽に」「書くことが重要」「書いてもらうことが大事」と思うと、書く場合も編集の立場でも気が楽になる。

副編集長 赤川 均 (S41E)

先日仕事で愛媛県松山市を訪ねたとき俳人・正岡子規の生誕の地が松山だったと初めて知った。そして東京出身の文豪・夏目漱石とは同じ年に生まれ松山で共に暮らした生涯の友であったことも知って二度びっくりした。漱石の代表作「坊ちゃん」等 偉大な歴史と文化を継承するこの町で五木ひろしのヒット曲「夜明けのブルース」♪ここは松山 二番町の店♪と声高らかにカラオケした自分が恥ずかしい。子規は日本に伝わってきたばかりのベースボールに親しみ「打者」「走者」等の野球用語を考案し、野球殿堂入りしていることも知り秋工野球部OBとしては直立不動最敬礼。酔いが醒めた。自分で歴史など作れないが、せめて母校の歴史紹介や親睦に寄与する会報KANASAの作成に微力を尽そうと心を新たにしている

副編集長 伊藤 幹夫 (S46A)

三平会長、奥山副会長と共に東京秋工会運営陣の中では最古参組になった。とはいえ総会などでの席では63才の今も若手グループに位置する。近年同期の仲間たちが連続で出席するようになってくれた。皆感想に持つのは、自分たちが若手とはね・・・ということ。三平さん、奥山さん、自分のように三～四十代から参加できたのはある意味特殊なのかもしれないと思うが、五十代がほぼいないと同然の現況にはどうも合点がいかない。基本、総会への出席や年会費の支払いはそれぞれの自由意思に任せるべきものと思うが、このままじり貧となっていく様子をただ手をこまねいて見ているわけにもいきまい。もちろん何もしていないわけではないが、決定打と思える手はなかなかない。それでも未だ若手グループ(???)とされる自分たちの世代が、何とかせねば・・・であるのは確かだろう。いい策があったらぜひ教えていただきたいと思う。

副編集長 船木 一美 (S48M)